



## 3月の行事(進路関係等)

- 1(火) 第51回卒業証書授与式
- 2(水) 高校後期募集入試会場準備
- 3(木) 高校後期募集学力検査
- 4(金) 高校校規募集学力検査採点日
- 5(土) 春季特別課外 [~6(日)]
- 6(日) SSH海外研修[~12(土)]
- 11(金) 公立学校合格発表日
- 12(土) 春季特別課外 [~13(日)]
- 14(月) 生徒協議会
- 16(水) 月曜日授業
- 17(木) PTA常任委員会
- 18(金) 新入生オリエンテーション
- 20(日) ● **春分の日**
- 21(月) **振替休日**
- 24(木) 進路講演会・合格体験談①② 生徒総会
- 25(金) 卒業式 大掃除 離任式 生徒集会
- 28(月) 単位追認試験 南高音楽祭

※○数字は学年を示します

## ＜第51期生・276名の皆さんの門出に…＞

卒業式前の週末、2月末にしては暖かかった日曜日、校門の辺りを歩いていたら、**梅の花を思わせる香りが風に乗って鼻を掠めた**ように感じました。「別れの季節」「新たな出会いの季節」などと表現される“春”が、微かに、しかし確実に近づいていることを実感した瞬間でした。

**第51期生・276名の皆さん、そして保護者の皆さん、御卒業おめでとうございます。**過ぎてしまうと「あっ」という間…だったことと思いますが、甲府南高校での3年間を皆さんはどのように振り返るでしょう。

このたび、進路だより「Frontier Spirit」第13号を発行するにあたり、第51期生が入学したころの進路だよりを見返してみました。

私の前任者が文責を務めていた平成25(2013)年度の進路だより第1号は、その冒頭に「祝入学 2013年度の新生甲府南高校がスタート～目標を立てて、その実現に向けて努力しよう～」と、皆さんの入学式を紹介する記事載せています。入学式が行われたのは4月9日。今回、皆さんの卒業の日となる3月1日と同じ火曜日でした。

入学式では、この年に着任された望月立弥校長先生が「**長期的な目標を立てて、その実現に向けて努力してほしい**」「**自分以外の他の人のために自分のエネルギーの一部を使おう**」と式辞を述べられ、また塩谷知則PTA会長(当時)が「**自分と向き合い、勉強や部活動に励んでください**」とお話くださいました。当時の進路だよりを読み進めると、その場面を思い出し、皆さんに向けて発せられた一言一言に、その思いの強さを改めて感じます。

あの日から3年…。多くの来賓の方々に御参席いただき、保護者の方々、後輩たち、(既に離任された先生方を含めた)本校職員…。多くの人々の祝福を受けて、皆さんは今日、本校を巣立ちます。**今日を境に、また一步、「大人の階段」を登るわけですが、皆さんの今日を祝福している人々は、この先も必ずどこかで見守り続けてくれるはずです。**だから…。

どうか、**物怖じせずに力強く、しかし常に謙虚さを持って、一步を踏みしめてください。**

3月1日は、まだ卒業生の多くが大学受験の真っ直中…。それぞれの進路について大勢が判明するのは3月も中旬を過ぎるころになります。その点ではまだ“卒業”という言葉に浸る気分にはならないかも知れません。しかし、1ヶ月後には新年度…。皆さんはそれぞれの道でそれぞれの4月を迎えることになります。また新しい出会いが待っているわけです。

やがて春が過ぎ、夏が来て、…。新しい生活に慣れたころ、皆さんがまた母校に足を運んでくれる機会もあるかと思います。

そのとき、「今が一番楽しい」と話してくれることが我々にとっては一番嬉しい瞬間です。

その日まで。暫し。

**進路指導部では毎年、卒業生の皆さんに近況報告用の「連絡はがき」を配付しています。**

**今年も既にホームルームを通じて配られていることと思いますが、新年度が始まったら早いうちにその葉書を認め、進路指導部宛に投函してください。宜しくお願いします。**

## <南高生に読んでもらいたい一冊>



今回紹介するのはアラン著（神谷幹夫訳）『幸福論』（岩波文庫、1998）です。この『幸福論』は1925年に刊行されたもので、初回発行から90年を経た名著です。ここで紹介したのは岩波文庫版（神谷幹夫訳）ですが、その他、岩波文庫と同様に廉価で入手できるものとして集英社文庫版（白井健三郎訳、1993）もありますし、マンガをはじめとして、いろいろな形態で刊行されています。

2年生の中には、修学旅行に行く直前の時期に職業人講話で御来校いただいた(株)吉字屋本店代表取締役社長・高野孫左衛門氏が推奨して下さった一冊として記憶している者もいることと思います。

原著者の“アラン”はペンネームで、本名はエミール=オーギュスト・シャルルティエ(1863～1951)と言い、フランスの哲学者・評論家などとして有名な人物です。この一冊も哲学書の部類に入るのでしょうが、哲学書というほど難解な読み物ではありませんので、何回でも読み返すことができる座右の書(?)としていかがでしょうか。

アランは語るのです。「どんな小さな努力でも、それをするだけで無限の結果が生まれてくる。」「悲観主義は気分にも属し、楽観主義は意志にも属する。気分にもかせて生きる人はみんな、悲しみにとらわれる。」「人間は自分以外にはほとんど敵はいない。人間は、自分のまちがった判断や、杞憂や、絶望や自分自身にさし向ける悲観的なことばなどによって、自分が自分自身に対してつねに最大の敵なのである。」と。私にとっては納得の一冊でした。

卒業生の皆さんは、大学受験が一区切り付いた時期に、1・2年生は進級する前に、ぜひ手にとって読んでみてください。翻訳本は訳者独自の表現が何かしら入るであろうことを考えると、「原書を読みたい」と興味を広げてくれる生徒がいれば、尚更に嬉しく思います。

## <「つもり違い十箇条」を知っていますか?>

下に記したものは「つもり違い十箇条」とよばれるものです。これが掲げられていたのは、確か高尾山・薬王院にだったと記憶していますが、どうだったでしょうか。誰が考えたものなのか、調べてもいませんが、この十箇条に出会った当初、「うまいことを言う人がいるモンだ」と感心しました。「言い得て妙」とはまさにこのことでしょう。

十、	九、	八、	七、	六、	五、	四、	三、	二、	一、
少	多	弱	強	薄	厚	浅	深	低	高
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ	つ
も	も	も	も	も	も	も	も	も	も
り	り	り	り	り	り	り	り	り	り
で	で	で	で	で	で	で	で	で	で
多	少	強	弱	厚	薄	深	浅	高	低
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
は	は	は	は	は	は	は	は	は	は
無	分	我	根	面	人	知	気	教	
駄	別		性	の	情	欲	識	位	養
				皮					

べてもいませんが、この十箇条に出会った当初、「うまいことを言う人がいるモンだ」と感心しました。「言い得て妙」とはまさにこのことでしょう。

「〇〇のつもりで、実は」という論法に「なるほど!!」と頷かされます。

私が子どものころ、母親が口にした「実るほど頭を垂れる稲穂かな…いつも謙虚にいなさい」の教えを思い出させる契機になった、「つもり違い十箇条」でした。

※平成27年度進路だより「Frontier Spirit」の配付は次回以降、1・2年生を対象としますが、進路情報に関する記事も掲載しますので、卒業生の皆さんはHPで閲覧してください。